

掛川市「考古の日」記念

出土文化財展

とき：平成6年6月24日(金)～26日(日)

ところ：掛川市生涯学習センターギャラリー1階



掛川城出土 鬼瓦

1994

掛川市教育委員会

かけがわ じょうあと
掛川城跡

- 1、調査地 掛川 1,138-24ほか
- 2、調査の原因 掛川城公園整備に先立つ発掘調査
- 3、調査の面積 7,000 m²
- 4、調査の期間 平成5年4月～平成6年3月
- 5、調査の内容

今年度の調査では、三日月堀、松尾池（内堀）、十露盤堀がその対象となりました。十露盤堀は、本丸門から北へ延びる水堀です。すべてを掘ることはできませんでしたが、トレーニング調査では堀はかなり広範囲に及ぶことがわかりました。堀の外側は不定形ですが、内部は幅広の敵によって仕切られた南北方向に長い箱堀が2本設けられていました。

三日月堀は、本丸門の前面に配された三日月状の水堀です。堀の壁面は急勾配で、深さは8mありました。

3つの堀は、暗渠によって結ばれており、一定の水位に達すると松尾池（内堀）に流される水位調整機能をもっていました。



十露盤堀の石垣



暗渠の蓋石



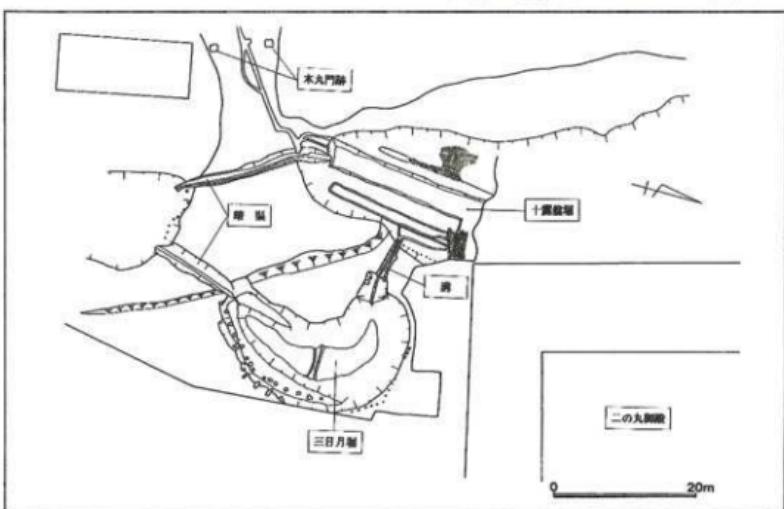
三日月堀



三日月堀の柱穴列



松尾池（内堀）・三日月堀・十露盤堀



松尾池（内堀）・三日月堀・十露盤堀の実測図

かけがわ じょうおお て もんあと
掛川城大手門跡

1、調査地 掛川1,135-3

2、調査の原因 掛川駅北土地区画整理事業に先立つ発掘調査

3、調査の面積 690 m²

4、調査の期間 平成5年4月～平成6年2月

5、調査の内容 前年度の調査結果も含めて、大手門の位置、規模、門を囲む土塙石垣を確認しました。

柱を支える石（礎石根固め石）の間隔から、間口7間（12.6m）、奥行き3間（5.4m）であることがわかりました。礎石根固め石は、柱の沈みを防ぐためのもので、地下に穴を掘り、石を数段積んでいました。

また、門の両側（東西）に確認された土塙石垣にも、石の沈下を防ぐために、胴木と呼ばれる木をいれるなど、構築の際の工夫がうかがえました。



礎石根固め石



礎石根固め石



土塙石垣と番所小屋跡



土塙石垣の胴木



東側礎石根固め石



礎石根固め石と土堀石垣

たかだいせき

高田遺跡

1、調査地 吉岡 1,296

2、調査の原因 茶園改植に先立つ発掘調査

3、調査の面積 1,400m²

4、調査の期間 平成5年8月～平成6年3月

5、調査の内容 調査では、縄文時代中期（約4,000年前）の小穴、弥生時代後期～古墳時代前期（約1,700～1,600年前）の竪穴住居跡4軒掘立柱建物6棟を発見しました。

竪穴住居は5m四方の隅丸方形で、ほぼ中央に炉をもっていました。かなり密集して確認され、何度も建て替えが行なわれていたようです。遺物は、当時の人々の生活用具であった壺、甕、高壺が数多く出土しました。



竪穴住居跡
(2軒重なりっている)



竪穴住居跡



竪穴住居使用後、土器と石を捨てている



土壌から出土した弥生時代後期の土器



調査区の全景



古墳時代初頭の握立柱建物



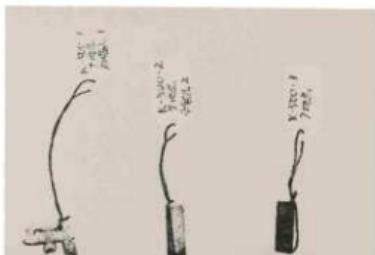
縄文時代中期の小穴

おおたに こ ふんぐん 大谷古墳群

- 1、調査地 千羽 1,290-2ほか
- 2、調査の原因 掛川市農協緑茶工場建設用地造成に先立つ発掘調査
- 3、調査の面積 640 m²
- 4、調査の期間 平成5年7月～8月
- 5、調査の内容 調査では、弥生時代後期～古墳時代初頭（約1,700～1,600年前）の穴がひとつと、古墳時代の溝を山の裾に1本と尾根を切る形で1本の2本発見しました。
遺物は、管玉2点と土器の破片などが見つかりました。



かきがや
柿ヶ谷遺跡



古墳時代の石製品

- 1、調査地 上西郷 4,208ほか
- 2、調査の原因 市道拡幅整備工事に先立つ発掘調査
- 3、調査の面積 60 m²
- 4、調査の期間 平成6年1月
- 5、調査の内容 調査では、昔の人々が作った建物の跡などは発見されませんでした。しかし、出土した土器から遺跡が縄文時代中期（約4,000年前）の村の跡であることがわかりました。



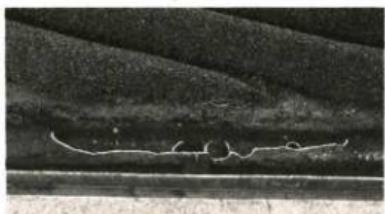
縄文土器



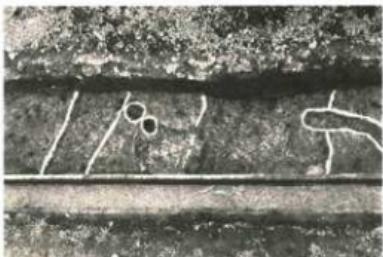
縄文土器

なかはら たかだうえのだん
中原遺跡・高田上ノ段遺跡

- 1、調査地 高田 1,032-1ほか
- 2、調査の原因 農道改良工事に先立つ発掘調査
- 3、調査の面積 556 m²
- 4、調査の期間 平成5年12月
- 5、調査の内容 調査は、道路に沿って約1mの幅で細長く行ない、豎穴住居跡（時期不明）を2軒、溝状遺構23本、小穴86個、昔の赤道の跡5本を発見しました。



豎穴住居跡



昔の道の跡

下に遺跡がありませんか？

工事する前に確認してください。

現在、掛川市には930もの遺跡があり、県内一遺跡の多い市だと言われています。こうした遺跡（埋蔵文化財）は、私たちの“心のふるさと”とも言われ、後世の人たちに伝えていくことが大切です。

このため『文化財保護法』で、遺跡のある場所で土木・建築工事や茶園の改植などをする場合、事前に文化庁に届出をすることが義務づけられています。

工事のため申請したが、遺跡の調査で完成が遅れてしまった——ということのないように、工事を計画する場合には、早めに掛川市教育委員会社会教育課にご相談ください。

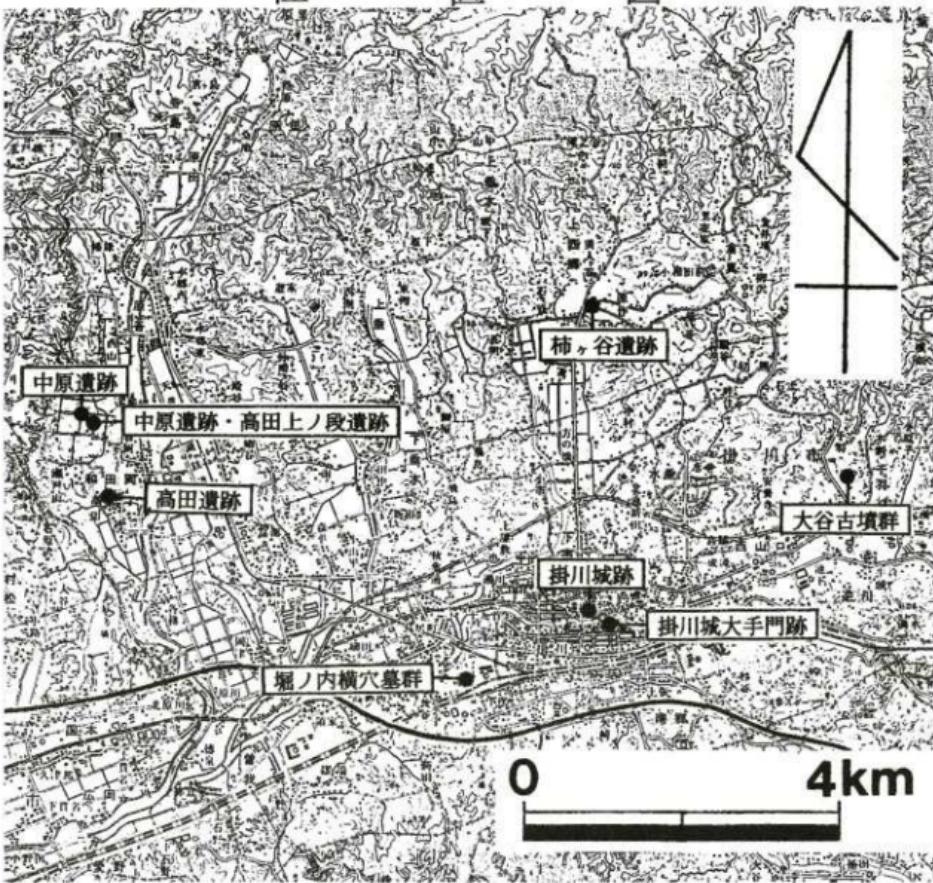
なお、市内にある遺跡の様子を示した『掛川市遺跡地図』があります。次の場所に用意してありますので、計画前にぜひご確認ください。

・掛川市教育委員会 社会教育課文化係 TEL (24) 7773
(24) 6268

・掛川市立図書館

・掛川市役所内：良質地域課（2階）

位 置 図



掛川市「考古の日」

明和9年5月21日（陰曆）現在の長谷字小出ヶ谷地区において、銅鐸一口が発見され掛川藩に届出されました。これが現在の文化財保護法の遺物の発見届と同じことで、この日を記念して、市民の埋蔵文化財に対する理解と、これらを保護・保存しようとする意識の向上を願い、毎年5月21日を掛川市「考古の日」として設定しました。

※パンフレットの無断転写を禁じます。



文化財愛護シンボルマーク